



第6回「映画批評月間」、最終上映では、「知られざるヌーヴェル・ヴァーグの作家」、リュック・ムレ監督特集に、パトリシア・マズイ監督とジャン=フランソワ・ステヴナン、アルノー&ジャン=マリー・ラリューの小特集、カンヌ国際映画祭等で話題を集めた作品など14プログラムを上映、多彩なゲストによるトークイベントも実施します。

アルノー&ジャン=マリー・ラリュー監督特集 Arnaud et Jean-Marie LARRIEU



パティーとの二十一夜 Vingt et une nuits avec Pattie

[フランス/2015年/115分/カラー/デジタル]
出演:イザベル・カリ、カリン・ヴァール、アンドレ・デュソルエ、ドニ・ラヴァン

盛夏。キャロリーヌは疎遠であった母が亡くなったとの報せを受け、パリから南仏の小さな村へ赴く。母が遺した家では、管理人のパティーが出迎えてくれた。ふたりで散歩に出かけるが、母の話もそこそこに、パティーは自分の性生活を赤裸々に語り始め、キャロリーヌは啞然とするばかり。そんな不思議な出会いの中、母の遺体が消えてしまう…。女性たちの性の解放、エロスとタナトスへのおおらかな賛辞に満ちた作品。



トラララ Tralala

[フランス/2021年/120分/カラー/デジタル]
出演:マチュー・アマルリック、メラニー・ティエリー、メイウェン、ドニ・ラヴァン

パリの街角で歌手をしている40代のトラララは街である夜、美しい若い女性に会った。彼女は彼にひとつの言葉を残し去っていった。「とにかく、自分自身であることをやめること」。トラララは夢を見たのだろうか?彼はパリを離れ、ルルドでその女性とまた遭遇する。彼女はトラララのことを覚えていないが、トラララが20年前にアメリカで行方不明になった自分の息子、バットだと勘違いする。“役”を引き受け受けることを決意したトラララは新しい家族を見つけ、自分でも気づかなかった才能を発見する。



ジムの物語 Le Roman de Jim

[フランス/2024年/101分/カラー]
出演:カリム・ルクル、レティシア・ドッシュ、サラ・ジロドー、ベルトラン・ブラン

ジュラ山脈に囲まれた街サン・クロードで、心優しい青年エメリックはかつての仕事仲間フロランスと再会する。妊娠6ヶ月のフロランスと暮らすようになったエメリックは、生まれてきたジムを自分の子のように育て、ふたりの間に強い絆が生まれる。しかし、ある日、実の父親クリストフが現れる。それはメロドラマの始まり、そして父親としての放浪と冒險の旅の始まりであった。

第6回 映画批評月間 フランス映画の現在をめぐって [スペシャルエディション]

[上映スケジュール]

1/24(土)

12:15 パシフィクション (165分)
上映後トーク有

15:55 ボルドーに囚われた女 (108分)

1/25(日)

13:30 ブリジットとブリジット+黒い大地 (94分)
上映後トーク有

16:00 ビリー・ザ・キッドの冒険+ウニの陰謀 (95分)

1/26(月)

13:30 ゴールドマン裁判 (116分)

15:45 ジムの物語 (101分)

1/27(火)

13:30 歓喜 (97分)

15:45 パティーとの二十一夜 (115分)

1/28(水)

13:30 カップルの解剖学+開栓の試み (97分)

15:45 メドールの帝国+映画館の座席
+ロングスタッフ氏の亡靈 (90分)

1/29(木)

13:30 走り来る男 (87分)

15:45 防寒帽 (110分)

1/30(金)

14:55 パシフィクション (165分)

1/31(土)

15:30 ジムの物語 (101分)

17:30 トラララ (120分)
上映後トーク有

2/1(日)

15:30 ボルドーに囚われた女 (108分)

17:45 走り来る男 (87分)

2/2(月)

16:45 ブリジットとブリジット+黒い大地 (94分)

19:00 メドールの帝国+映画館の座席
+ロングスタッフ氏の亡靈 (90分)

2/3(火)

16:45 ゴールドマン裁判 (116分)

19:00 歓喜 (97分)

2/4(水)

16:30 防寒帽 (110分)

18:40 走り来る男 (87分)
上映後トーク有

2/5(木)

16:30 トラン (120分)

18:45 パティーとの二十一夜 (115分)

2/6(金)

16:45 カップルの解剖学+開栓の試み (97分)

19:00 ビリー・ザ・キッドの冒険+ウニの陰謀 (95分)

[トークイベント情報]

1/24(土) 12:15 『パシフィクション』上映後

石橋英子(音楽家)によるトーク 聞き手:森田佑一(ブンクテ)

1/25(日) 13:30 『ブリジットとブリジット』+『黒い大地』上映後

井口奈己(映画監督)によるトーク 聞き手:坂本安美(東京日仏学院)

1/31(土) 17:30 『トラン』上映後

マチュー・アマルリックによるトーク(オンライン) 聞き手:坂本安美

2/4(水) 18:40 『走り来る男』上映後

廣瀬純(映画批評)によるレクチャー

[チケット]

全席指定・定員入替制

1回券……1600円|学生・会員・シニア……1300円

リピーター割引(半券提示)……1200円

※チケットは、劇場HP(オンライン)、窓口ともに、ご鑑賞日の3日前から指定席で発売します。

[主催]ユーロスペース、一般社団法人コミュニティシネマセンター [企画協力]アンスティチュ・フランセ日本
[助成]アンスティチュ・フランセパリ本部、ユニフランス [特別協力]JAIHO [協力]ブンクテ、イメージフォーラム
[アンスティチュ・フランセ日本 映画プログラム オフィシャル・パートナー]CNC、笹川日仏財団
[フィルム提供及び協力]レ・フィルム・デュ・ロサンゼル、MK2

ユーロスペース

JAPAN
COMMUNITY
CINEMA
CENTER

INSTITUT
FRANÇAIS
アンスティチュ・フランス

JAIHO

CNC

FOUNDATION
FRANCO-JAPONESE
SOCIETY

第6回 映画批評月間 フランス映画の現在をめぐって [スペシャルエディション]



mois de la critique
映画批評月間

2026.

1/24(土) — 2/6(金)

会場 ユーロスペース

Rétrospective
Luc MOULLET
リュック・ムレ特集

Patricia MAZUY et
Jean-François Stévenin
パトリシア・マズイとジャン=フランソワ・ステヴナン

Arnaud et Jean-Marie
LARRIEU
アルノー&ジャン=マリー・ラリュー監督小特集

[トークゲスト]

石橋英子
音楽家

マチュー・アマルリック
俳優／映画監督

井口奈己
映画監督

廣瀬純
映画批評

ほか



パトリシア・マズイと ジャン=フランソワ・ステヴナン

Patricia MAZUY et Jean-François Stévenin

ジャン=フランソワ・ステヴナン監督・主演の『防寒帽』をみたパトリシア・マズイはステヴナンのファンになり、いつかステヴナンの映画を撮りたいと思う。その思いは、1988年に初長編監督作『走り来る男』として結実する。マズイの最新作『ボルドーに囚われた女』を合わせて上映。



防寒帽 Passe montagne

[フランス/1978年/110分/カラー/デジタル]

監督: ジャン=フランソワ・ステヴナン

出演: ジャン=フランソワ・ステヴナン、ジャック・ヴィルレ、イヴ・ル・モワニユ

田舎に住む物静かな男セルジュは、パリからやって来たジョルジュと出逢う。友人たちに見捨てられ、車が故障して困っていたジョルジュは、修理工場で車を直してくれたセルジュと共に山岳地帯のジュラを旅することになり、やがてふたりの間には不思議な友情が芽生えてくる。フランスの山岳地帯をふたりの男が西部劇ながらに旅をするロード・ムービー。



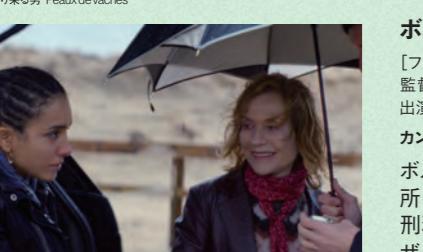
走り来る男 Peaux de vaches

[フランス/1988年/87分/カラー]

監督: パトリシア・マズイ

出演: ジャン=フランソワ・ステヴナン、サンドリーヌ・ボネール、ジャック・スピエセル

北フランスのある田舎町、ジェラールは兄とともに酩酊し、農場に火事を起こし、たまたまそこへいた浮浪者が命を落としてしまう。10年後、美しいアニーと結婚し、娘ができ、新たに農場を持ったジェラールのもとに刑務所から出所した兄が戻ってくる。彼は復讐を果たすために戻ってきたのだろうか…。撮影はヌーヴェル・ヴァーグを支えた名匠ラウル・クタール。



ボルドーに囚われた女 La Prisonnière de Bordeaux

[フランス/2024年/108分/カラー]

監督: パトリシア・マズイ

出演: イザベル・ユペール、アフシア・エルジ、マーニュ・ハヴァード・ブレック

カンヌ国際映画祭監督週間出品作品

ボルドーのある屋敷に一人で暮らすアルマと、郊外に住む若い母親ミナは、同じ刑務所に留置されている夫の不在を中心に生活を組み立てていた。夫たちの面会に訪れた刑務所でふたりの女性は出会い、波乱に満ちた、不可能な友情を育みはじめる…。イザベル・ユペールとアフシア・エルジ、ふたりの偉大な女優が演じる世代、階層の異なる女性間の友情、テンション、サスペンスが見事に描かれている。

「『防寒帽』を見てステヴナンのファンになり、彼のための映画を撮りたいと思っていた。帰還する男を通して、攻撃的、暴力的な側面もある現代の田舎を浮かび上がらせ、家族の中に潜むものを触発したかった。『冬の旅』で発見したサンドリーヌ・ボネール、そして弟役にジャック・スピエセルを見出し、映画は始動し始めた」

—— パトリシア・マズイ



知られざるヌーヴェル・ヴァーグ リュック・ムレ特集 Rétrospective Luc MOULLET

ヌーヴェル・ヴァーグ唯一のバーレスク映画作家であり、フランスをはじめ世界的にカルト的な人気を誇るリュック・ムレ。コメディ、冒險活劇、西部劇、日記、ロードムービー、犯罪映画、そしてカップル、地理、文学作品を題材にした作品など、あらゆるフォーマット、あらゆるジャンルで38本の映画を生み出している。

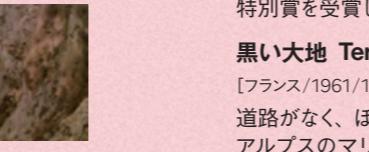


ブリジットとブリジット Brigitte et Brigitte

[フランス/1966年/75分/モノクロ]

出演: フランソワーズ・ヴァテル、コレット・デコンブ

ビレーヌ出身の女の子とアルプス出身の女の子が上京したパリで偶然出会う。同じ名前を持つふたりは意気投合し、一緒に大学生活を満喫しようとするのだが…。ムレは首都に到着した瞬間から、自分の生き立ちを忘れ、見知らぬ世界で受け入れられるために規範に従わなければならない若者たちを観察する。フラー、ロメール、シャブロルらが友情出演。ゴダールに「真に革命的な映画」と讃えられ、イエール映画祭で審査員特別賞を受賞した。



黒い大地 Terres noirs

[フランス/1961/19分/カラー]

道路がなく、ほとんど消滅しようとしているようなふたつの村、ビレーヌ山脈のマンテとアルプスのマリオーを探訪する。題材の深刻さと短編映画の遊び心との間に楽しいコントラストを生み出している。

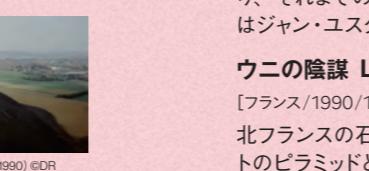


比利ー・ザ・キッドの冒険 Une Aventure de Billy le Kid (A Girl Is a Gun)

[フランス/1971年/78分/カラー]

出演: ジャン=ピエール・レオ、ラシェル・ケステルベール

ひとりでウェルズ・ファーゴの駅馬車を襲った比利ーは戦利品を運ぶのに苦労する。そんな時、比利ーはアンと出会い…。ホークスを進んで参照しながら、砂漠、断崖、山道を舞台に、少人数のクルーとわずか6日で唯一無二のシュールな西部劇を撮り上げた。主人公を演じるJ=P・レオは、この多義的な側面を持つキャラクターを演じることにより、それまでの役やイメージから離れ、俳優としての新たな可能性を示している。編集はジャン・ユスター。



ウニの陰謀 La Cabale des oursins

[フランス/1990/17分/カラー]

北フランスの石灰鉱山跡に残る“ボタ山”が、コロラド州のグランドキャニオンやエジプトのピラミッドと同じように、観光名所とみなされたらどうだろう。地理をこよなく愛するムレがフランスを旅する。



カップルの解剖学 Anatomie d'un rapport

[フランス/1976年/82分/モノクロ]

出演: リュック・ムレ、クリスティーヌ・エベル

映画監督とそのパートナーが、フェミニズム思想に影響され、カップルとしての関係を分析する。ムレとパートナーのアントニエッタ・ピゾルノの共同監督作品。ドキュメンタリーとフィクションの中間に位置する本作でムレは自分自身を演じるが、ピゾルノは自分の役を「比利ー・ザ・キッドの冒険」のヒロイン、ラシェル・ケステルベール(変名でクレジット)に譲っている。カップルの親密さ、無秩序、異なるニーズを共存させることの難しさについて率直に語るとともに、軽視されがちだった女性の快楽について繊細な探求をしている。



開栓の試み Essai d'ouverture

[フランス/1988/15分]

キャップがどうしても開かないとき、どのようにコカ・コーラの栓を開けるか。



【プログラム④】

メドールの帝国 L'Empereur de Médor

[フランス/1986/13分/カラー]

犬、その飼い主、擬人化・都会における“人間の親友”的居場所についての辛辣な考察。



映画館の座席 Les Sièges de l'Alcazar

[フランス/1989/57分/カラー]

出演: オリヴィエ・マルティニ、エリザベト・モロー、サビース・オードパン

1955年、パリ。『カイエ・デュ・シネマ』誌の批評家ギイは、地元の映画館にヴィットリオ・コッタファヴィの映画を観に行く。そこで敵対する雑誌『ポジティフ』の批評家ジャンヌと会い、恋に落ちるのだが…。シネファイルの日常が痛快に描き出される。



ロングスタッフ氏の亡霊 Le Fantôme de Longstaf

[フランス/1996/20分/カラー]

出演: イリアナ・ロリック、エレーヌ・ラビオヴェル、ジェフリー・キャリー

原作: ヘンリー・ジェイムズ短編集『ロングスタッフの結婚』

1880年、ノルマンディーの浜辺で、喘息で瀕死の状態にある裕福なイギリス人が、若く美しいアメリカ人女性と出会い、恋に落ちる。彼女は彼を拒絶するが、2年後、彼は再び現れる…。綿密なフレーミングと洗練された演技でヘンリー・ジェイムズの世界を見事に描き出す。

「リュック・ムレは、ブニュエルとタチの両者を継承するおそらく唯一の存在だ。」

—— ジャン=マリー・ストローブ(映画作家)

映画批評月間スペシャル！



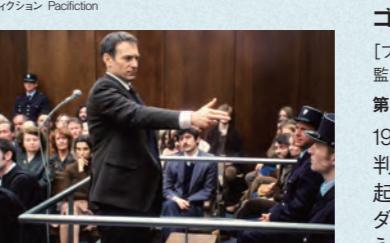
パシフィクション Pacification d'Albert Serra

[スペイン・フランス=ドイツ=ポルトガル/2022年/165分/カラー]

監督: アルベルト・セラ 出演: ブノワ・マジメル、バオア・マハガファナウ、マルク・スジー

第75回カンヌ国際映画祭コンペティション部門出品/『カイエ・デュ・シネマ』2022年ベストテン第1位

南太平洋のフランス領ポリネシアにある「デ・ローラー共和国」。高等弁務官は、完璧なマナーを身に着け、公式の場でも裏社会でも、地元住民の動向を怠りなく注視し、抜かりなく身を処してきた。太平洋上で潜水艦が目撃され、フランスの核実験再開の噂が流れ、島に上陸、不穏な気配が島全体を覆い始める。



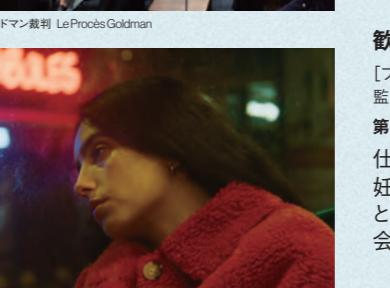
ゴールドマン裁判 Le Procès Goldman de Cédric Kahn

[フランス/2023年/116分/カラー]

監督: セドリック・カーン 出演: アリエ・ワルトアリテ、アルチュール・アラリ、ステファン・グラン・ティリー

第76回カンヌ国際映画祭監督週間オープニング作品

1970年代にフランス中を騒がせた「ビエール・ゴールドマン事件」の法廷を再現した裁判映画。複数の強盗罪で起訴されたゴールドマンは、自身の罪を認めながら、薬局で起きた殺人事件だけは否認する。警察の杜撰な捜査、関係者たちの曖昧な証言、ユダヤ人差別など数々の問題が浮上してくる。法廷でのやり取りがドキュメンタリーのようにカメラに収められていく。



歡喜 Le Ravissement d'Iris Kaltenbäck

[フランス/2023年/97分/カラー]

監督: イリス・カルテンバック 出演: アシア・エルジ、アレクシ・マナンティ、ニナ・ミュリス

第76回カンヌ国際映画祭批評家週間出品

仕事熱心な助産師のリディアは恋愛で破局を迎えていた。同じ頃、親友のサロメが妊娠、共に出産までのときを過ごす。難産を乗り越えて新生児を取り上げ、名付け親となり、育児にも積極的に協力する。そんなある日、かつて一夜を過ごしたミロスと再会、孤独なリディアの小さな嘘はやがて人生を賭けた大きな事件へ広がっていく。

『映画批評月間／フランス映画の現在2025』のウェBSITEで、主要紙(誌)に掲載された批評家のコメントやパトリシア・マズイ監督のプロフィールなどを読むことができます！

<http://jc3.jp/mdlc2025/>